

# 弁理士とMOT

● 会員 鷹取 政信

弁理士と〇〇 Series 4

MOTとは技術マネジメントのことです。英語では Management of Technology と表現し技術経営とも翻訳されています。企業が顧客から高い評価を獲得しうる商品や役務を提供して行くために、企業経営者が描く夢を実現してゆくために技術的側面から支えるツールが MOT です。また、MOT を経営の核に据え、経営を技術経営と捉え、それを経営戦略の要とする動きが注目されています。MOT は製造業の研究開発成果や休眠特許の活用などが十分な投資回収の効果をもたらしていないとの問題点を解消するツールとしても注目されています。

製造業では、売れる物を探し出し、企画し、物を作り、販売し、利益を得て、さらに新商品開発に投資する。との製造サイクルが行われています。これは正に知財創造サイクルと一致しています。物を作るには技術が不可欠となります。全く新しい物を作るためには、それを作るための道具も新しく作らなければならない。既存技術や資金、人材の外に、特に想像力が求められます。

知財創造立国を標榜する政府や国民から、弁理士は知財の専門家として技術と法律のエキスパートとなるべく要請されています。そして最も期待されていることが知財創造サイクルに一貫関与することです。そのために要求される資質は技術を理解でき、その創造フェーズから技術的サポートやアドバイスを通じて活躍する能力です。創造フェーズでは市場のニーズと企業のシーズのマッチングができる人材が求められています。シーズがあってもこれを市場のニーズに適合するための技術を中々発見できない又は応用技術を創造できないからです。この問題は休眠特許の流通の現場でも克服しなければならない問題となっています。

このような状況の中で、高度情報化社会が現実のものとなりつつある現在、従来の大企業の研究所や大学の研究機関の果たす機能にとって代わろうとするインターネット・コラボレーションのラボラトリーの実現を提案します。これは物作りに携わる者は誰でも参加できるネット上の仮想研究所です。企業の壁や大学の壁、国・地域の壁を超えて、日本の技術創造活動に結集し、情報の共有化や共同技術開発を実現します。このような動きの中で弁理士は大きな集団の力と一企業・一個人の個性を最大限に生かした活動との調整をとりつつ新技術の創造に貢献し、国民生活を豊かにし、投資効果を改善してゆくフロンティアリーダーとなるべく“Purpose Brand”（独自ブランド）の確立を目指すべき時代になりました。